～西部検査所・新棟がオープン～

（公財）静岡県予防医学協会西部検査所は、近年の業務量に比べて建物も手狭となり、検査所北側に新棟を新築し、昨年９月24日より総務課・健康増進課・情報管理課は北側新棟に移転しました。

胃部X線デジタル検診車の整備

平成25年11月、（公財）ＪＫＡの競輪補助事業により、胃部X線デジタル検診車を導入しました。

このたび、公益財団法人JKA（平成25年度検診車の整備補助事業／RING！RING！プロジェクト）の補助を受け、聴覚障害者向けの検診システムを搭載した胃部X線デジタル検診車を導入しました。

このシステムを搭載した検診車は当協会では２台目となり、検診車内における動作についてモニタに表示される絵や文字により指示内容を理解し安心して受診できるため、スムーズな検診が可能となります。また、５ヶ国語対応の音声発生装置により、聴覚障害者や聴力の弱い高齢者、外国人の方などへも安心して胃がん検診を受診する機会を提供することができ、胃がん検診の受診率の向上と疾病の早期発見が期待できます。

（当協会では、現在胃がん検診を撮影できるX線検診車を11台保有しており、静岡県民の健康の保持、増進に努めております。）

※聴覚障害者向け検診システム

検診車内での動作について行動し易いように、わかり易く絵や文字で表示するパネルや５ヶ国語対応（日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語）の表示パネル・音声発生装置等のシステム

駒形課長代理に中央会奨励賞
予防医学全国大会開かれる

第58回予防医学事業推進全国大会が去る10月17日福井市のフェニックスプラザにおいて開催された。

（公益財団法人予防医学事業中央会他が主催）

「いのちを繋ぐ絆を目指して」をテーマに全国から予防医学事業の関係者・地元一般参加者を多数迎え盛大に行われた。

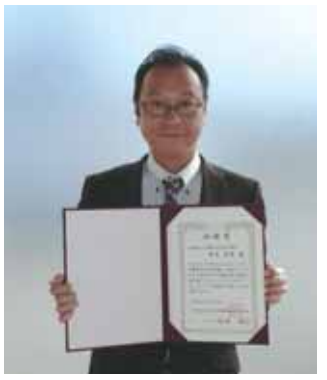
大会では記念公演を福井県済生会院長　田中延善先生が「過去から未来に繋がる健康づくり」をテーマに特別講演を諏訪中央病院名誉院長鎌田實先生が「心と体の健康法、教えます」をテーマに文化公演を第58代横綱千代の富士の九重親方が「力士の日頃の食事量と健康管理の心得」をテーマに行われた。

また記念式典では功績者の表彰が行われ、当協会の西部検査所健診検査課の駒形孝枝課長代理が予防医学事業中央会奨励賞を受賞した。

駒形課長代理は平成２年に当協会に入職以来、学校・地域・職域の健診検査業務に熱心に従事してきた。精度管理責任者として精度管理の向上に寄与し現在は登録衛生検査所の管理者を務める。

誠実で快活な人柄で周囲の信頼も厚く、人材育成や円滑な業務運営のために尽力している。今後の更なる活躍が期待されている。

鈴木係長 （公財）全国労働衛生団体連合会 功績賞を受賞



（公財）全国労働衛生団体連合会が主催する平成25年度運営研究協議会が、11月29日大阪府のメルパルク大阪において開催された。

協議会では、長年、労働衛生関係業務に専念しその向上に貢献、功績のあった方々に感謝状等贈呈の表彰式が行われ、（公財）静岡県予防医学協会東部事務所係長鈴木芳章氏が功績賞を受賞した。

同氏は、昭和63年９月入協以来、業務部業務課を経て総合健診センターに勤務し、現在は（公財）静岡県予防医学協会東部事務所　勤務に至る。健康保険組合や各企業との折衝を行うと共に、健診計画に従事。上司部下との連絡協調に配慮し的確な業務処理など協会運営の円滑な推進に大きく貢献した。

また、当日の運営研究協議会では、１「最近の労働衛生行政の動き」厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課職業性疾病分析官川島孝徳先生による講演

２「がん検診のススメ」東京大学医学部附属病院放射線科准教授緩和ケア診療部長中川恵一先生による講演が行われた。

川島孝徳先生の「最近の労働衛生行政の動き」講演の中では、最近の特殊健診の動向について、今後法改正の必要が予想される特殊健診対象の特化物についての紹介があった。

又、中川恵一先生の「がん検診のススメ」の講演では、最先端のがん予防と治療についての講演があった。

日本は世界一の長寿国になった結果、２人に１人はがんで死ぬ、「世界一のがん大国」になっている。又、早期がんのうちに発見できる期間はたった１～２年であり、早期発見の必要性や治療法も、「がん治療なんでも手術」の時代は終わり、がんの治療法は自分で選ぶ時代が来ていると、治療方法の選択も重要であることを強調された。

各種データやテレビ番組に出演された映像等を映しながら、とても分かりやすい内容で、労働衛生従事者にとって、とても参考になるご講演をいただき、大盛況のうちに閉会した。